

「弥生時代のミステリーサークル？」

遺跡を発掘調査するとドーナツ状の溝が見つかります。これは円形であったり方形であったりしますが、弥生時代から奈良・平安時代を中心とし古くは縄文時代から幅広い時代に見られます（注1）。円形やC型、方形状に溝を掘つたあと、その中心部に死者を埋葬する場合はお墓であると断定できます。このタイプのお墓は弥生時代に登場し、溝から出土した土を溝の内側に盛り上げて墳丘をつくり、次第に古墳へと発展していく

ます（写真1）。しかし溝を掘つただけで、中心部に何も見当たらないものも数多くあります。お墓ではない溝だけの遺構…まるでミステリー サークルのようですが一体これは何の施設なのでしょう？

その溝の中には赤く塗られた特別な土器などが投げ込んであった例などから、何らかの祭祀（おまつり）をした跡という説が有力ですが、盛つてあつた土やお墓などの構造物が開墾などで削られてしまつて溝だけになつてしまつたこともあります。

考えられるため、周溝全体ではどのような遺構であつたか分からぬのが現状です。

写真1. 周溝墓から円墳への発展する様子
周溝墓（写真右）から円墳（写真左）へと発展

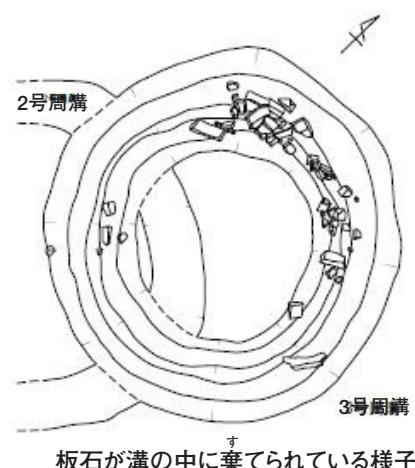
さて、宮山遺跡においては円形周溝が4基見つかりました。溝内からの土器の出土が少なく時代判定は難しいのですが、竪穴住居などを壊していくため住居群と同じ頃の弥生時代後期（約1,800年前）に存在していたと考えられます。また、円形周溝は住居群のより少し小高い広場のよ



写真2. 重なり合った円形周溝（手前が2号、奥が3号）

うなところにあるため、宮山遺跡の集落内において重要な役割を持つていた可能性もあります。

特徴的なのは重なり合っている2号と3号の円形周溝です（写真2）。2号を3号が壊して掘られていましたので3号が新しいことになりますが、これは1つの円形周溝が長期間の用途のために作られたものではないことを表しています。つまり儀式など一定の目的のために造られ、施設として不用となつた段階で埋め戻された可能性もあります。



※宮山遺跡から出土した土器などの整理作業を旧役犬原小学校で行っています。見学可能です。お気軽におこし下さい。

すが、この石は宮山遺跡一帯にはないため、遠くから持ち込み中央部に積まれていたなど呪術的な意味があつたのかもしれません。稻作文化の広がりとともに倭国大乱を巻き起こした弥生時代ですが、常に「まつり」や「祈り」を中心とした社会であつたと言われています。宮山遺跡の人々の祈りとはどのようなものだったのでしょうかね。（注1）円形及びC型のものを円形周溝、方形のものを方形周溝といいます